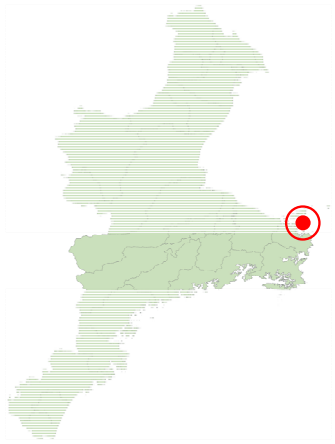
菅島地区について

菅島地区は、鳥羽市の中心部から直線距離で東に約３㎞にあり、三重県の中央部、伊勢湾の湾口部に位置している。

島は、潮通しもよく水産資源の豊富な好漁場に恵まれた地域である。主要な産業は漁業で、漁業種類は一本釣り、刺し網や定置網、海女漁や海苔の養殖など季節によって様々な漁業を営んでいる。また、島の西部には採石場があり、かんらん岩を採取している。



菅島地区の藻場の現状と活動組織の歩み

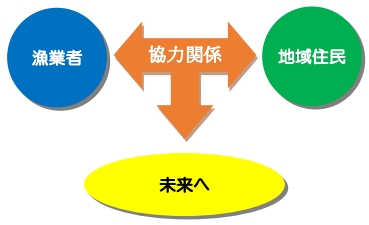
昔は島の沿岸全域でアラメやガラモ場が多くみられ、豊かな海域環境にあった。しかし、十数年前から島の北部から西部側にかけて、菅島沿岸のおよそ半分ほどの藻場が、磯焼けにより衰退した。この藻場の衰退により、周辺漁業への影響や海域環境の悪化が危惧されたため、衰退を食い止めるべく、取り組みを開始した。現在の活動は、5 年ほど前から若い世代（20 代中心）へと引き継がれており、取り組みの内容も試行錯誤を重ねている。

菅島地区藻場保全活動組織としては、平成 25 年から活動を行っているが、それ以前も「環境・生態系保全活動支援推進事業」を活用し、保全活動を展開してきた。

組織の活動方針

当初の保全活動は、漁業者や漁協組合員で実施されていたが、現在は菅島の若手の漁業者及び地域住民で取り組みを行っている。活動は毎年、年度末にその年の活動報告を行い、課題や反省点等を話し合い、次年度の活動の方向性や計画を立てて行っている。当初からの基本方針として、自分たちができることを、できる範囲で継続して行っていくことを目標に活動を行っている。

活動組織としての当初からの目標は、昔の豊かな藻場を再生させることである。しかし、地元住民としての本当の意味での最終的な目標は、再生した環境を次世代やまた次の世代へと繋げていくことであり、また、こういった自然を守る地域住民の心を未来へと繋げていくことだと考えている。



藻場再生の活動

現在の活動内容は、種苗移植とモニタリング調査を中心に行っている。藻場再生の区域は、島の北西部に位置する 20×100mの範囲で行っている。数年前までは、人工種苗を移植していたが、あまり成果がみられなかった。そこで、周辺海域の天然アラメの種苗を採集し、それを移植に用いている。平成 28 年度までは投入した種苗に網を被せ、食害の防止を行っていたが、移植設置した藻体に対して網が遮光してしまい生育を阻害してしまうことが問題となり、網の設置をとりやめた。

現在、モニタリングは種苗の投入後、月 1 回程度実施している。モニタリングの手法は、スキューバ潜水にて 1m×1m の枠を定点に設置し、写真撮影と被度の計測を行っている。モニタリング調査は、毎回スキューバ潜水にて行うため、安全確保のために構成員は全員スキューバのライセンスを取得し、作業を行うこととしている。

成果

保護区域の藻場は、現在、区域全体（2000 ㎡）の約 10%（200 ㎡）程度が回復した状態である。藻場の再生面積としては、あまり大きな回復に至っていないが、漁業者からは定置網で採れる魚が増加したという声も聞かれている。

また、保全活動を通じて、菅島小学校の全校生徒を対象に環境学習や種苗の作成・投入などの体験学習も行っている。屋外での活動は主に 4 年生から 6 年生が中心であるが、地域の子どもたちに地元の自然（海）の大切さや関わり方を伝えることができたと考える。

今後の課題

再生区域の藻場は、年々面積が広がっているものの、再生区域全体の10%程度に留まっている。そのため、今後も市の水産研究所と共同で、この地域に合った保全及び再生方法を模索していく必要があると考えている。

地域の海洋環境の問題としては、島の南西部に位置する採石場から、降雨などにより土砂が流出し、透明度の悪化や藻類への浮泥の堆積がみられる。一度、大規模な土砂の流出が起こると、周辺の藻場に広範囲に影響を及ぼしてしまうため、その対策が重要であると考えている。